

吾桑小学校 第6学年 道徳学習指導案

平成26年12月5日 第5校時

児童数 計16名

授業者

1. 主題名 受け継がれるいのち 3－(1) 生命尊重

2. 資料名 「その思いを受けついで」(出典：私たちの道徳 小学校5・6年 文部科学省)

3. 主題設定の理由

内容項目3－(1)は、主として自他の生命を尊重し力強く生き抜こうとする心を育てるとともに、生命に対する畏敬の念をもつことができる児童を育てようとする内容項目である。

高学年になると、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。また一人ひとりの生命は、様々な人と支え合う中ではぐくまれ、さらに生命は祖先から自分へそして子孫へと受け継がれていくことも理解できるようになる。その中で生命はかけがえのないものだと自覚できるようになることが重要になってくる。そこで、人間の誕生の喜びや死の重さ、生きていく事の尊さ、さらには共に生きることのすばらしさを体験や社会の出来事と向かい合う中で深く考えられるように工夫することが必要である。

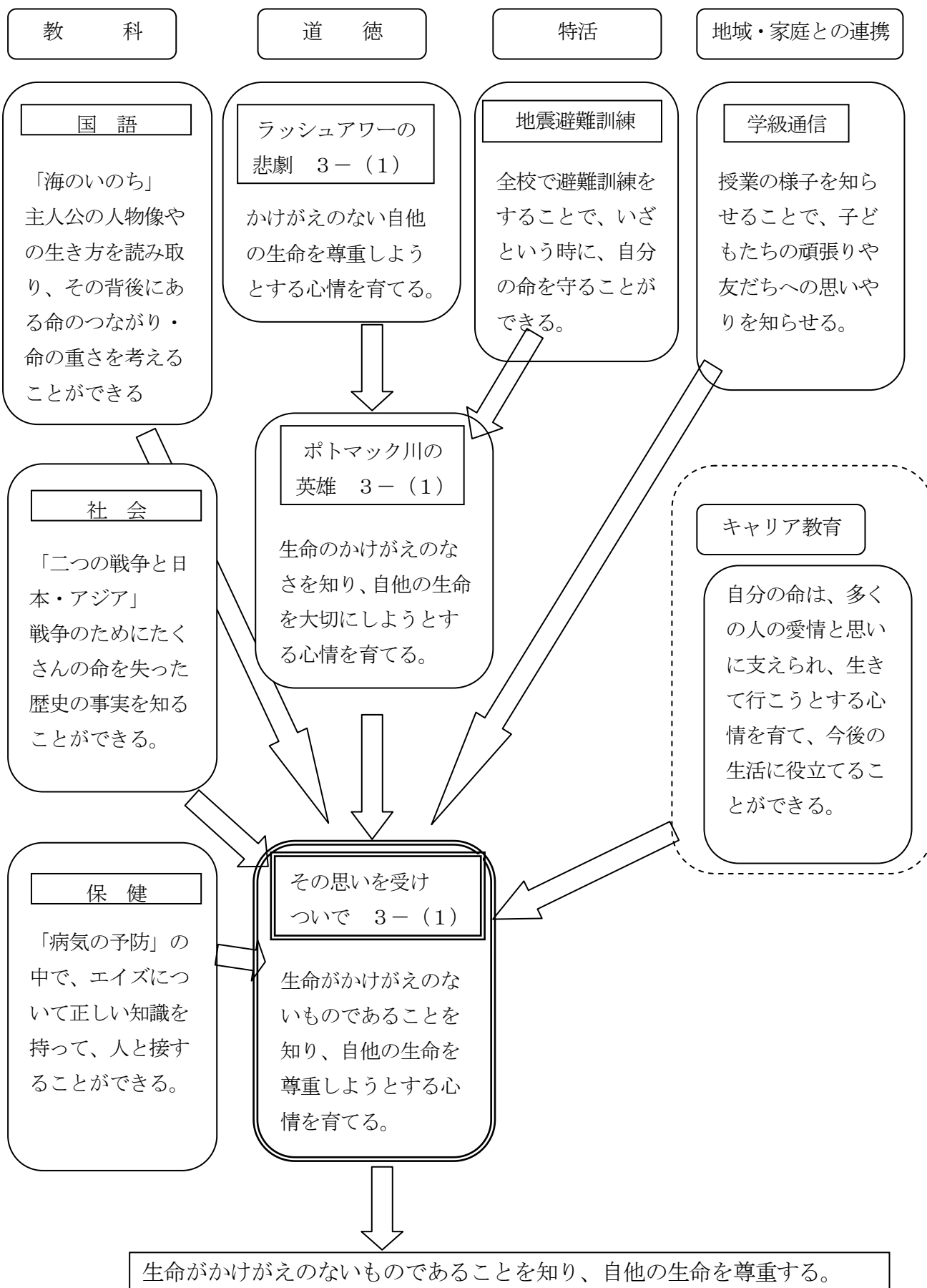
本学級の児童は、家庭的にも恵まれている児童が多く、学校の行事や取り組みに対して積極的にまた温かく協力してくれる保護者が多い。その中で、児童には、やってもらって当たり前という態度が見られる。そこで、周りの温かい励ましや協力で自分たちがのびのびと育っていける事を確認させ、与えられた自分の命を大切にしていこうという心情を育てたい。また、数名ではあるが厳しい現実を抱えながら毎日学校に通ってきている児童もいるので、「生命の大切さ」をしっかりと考えさせたいと思う。これまで、毎日の朝の会で、新聞記事から命に関する内容を紹介させ、社会の出来事に対する視野を広めさせたり、社会科では、過去の歴史の中で限らない命をむやみに失う事があった事実から、家族への思いや命の大切さについても考えさせたりしてきた。先日の地震避難訓練では、命を守るための訓練であるということを児童に意識させることで、真剣に取り組む態度が見られた。

本資料「その思いを受けついで」は、生前はもとより死を迎える時が近づいてもなお、孫への愛情をもち続けた祖父、またその思いを大切に受け継いで、力強く生きていこうとする「ぼく」の言動から、これまでの自分を見つめ生命について深く考えることができる。

本時の指導にあたっては、導入で、命についてのアンケートの結果を紹介することより、価値への意識づけを図る。展開前段では、大切な存在である祖父の命が残り3ヶ月と限られていることを知った時の「ぼく」の苦悩について考えさせ、誰にでも起こるかもしれない、かけがえのない人を失う不安や寂しさに共感させる。そして、限られた時間を少しでも祖父と共に過ごす時間を大切にしたい「ぼく」の思いの深さを考えさせる。また、亡くなってから見つかったのし袋を見て、祖父の深い思いを知り、じいちゃんが亡くなくても、前を向いて頑張って生きていこうとするぼくの思いに気付かせたい。終末では、「私たちの道徳」P100を読むことで、周りの人たちの深い愛情や思いによって支えられていることに気付き、自分や周りの人たちの生命を尊重しようとする心情につなげていきたい。

キャリア教育として、生命尊重意識と人間関係形成に関わる発達の課題を意識し、主として自己理解能力やコミュニケーション能力を育てていくことに重きを置き今後の生活に役立てる。

4. 各教科・領域との関連



5. 本時の指導

(1) ねらい

- ・生命は、かけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。3－(1)
- ・自分の存在がかけがえのないものであることを知り、大切にする心をもつ。(自他理解能力・コミュニケーション能力)

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ☆キャリア教育視点での留意点
導 入	1. アンケートの結果を知る。	○「命がかけがえのないものだなあ」と思ったことを紹介します。 ・きくやさんが、学校にもう来られなくなった時 ・病気をした時に、家族が心配してくれた。 ・おばあちゃんやおじいちゃんがなくなった時	・「命がかけがえのないものだと思ったこと」を書いてもらったアンケートの結果を知ることで、価値への意識づけを図る。
展 開	2. 資料を読み話し合う。 ・じいちゃんがあと3カ月の命だと聞いた時 ・じいちゃんの病院に通い続けた時 ・じいちゃんが手をにぎり返した時 ・のし袋を見つけた時 3. これまでの自分の生活を振り返る。	○じいちゃんの命があと3カ月だと聞いた「ぼく」はどんな気持ちだったのでしょうか。 ・そんなこと信じられない。 ・大好きなじいちゃんがいなくなるのは、さみしい。 ○「ぼく」はじいちゃんの病院にどんなことを考えながら、毎日通い続けていたのでしょうか。 ・残りの時間を大切にしたい。 ・最後になるかもしれないから、一日でも一緒にいたい。 ・精一杯のことをしてあげたい。・死なないで。 ○じいちゃんが手をにぎり返した時、ぼくはどんなことを思ったのでしょうか。 ・じいちゃん元気出して。 ・このまま死んだらいやだよ。 ◎誕生祝いののし袋に書かれた字を見て、「ぼく」はどんな気持ちになったのでしょうか。 ・ぼくのことを一生懸命考えてくれていたんだ。 ・じいちゃんのおかげで、ここまで大きくなれたよ。ありがとう。 ○今日勉強して、命についてどんなことを考えましたか。 ・自分の命は、大切にしなければならない。 ・自分の命は、一人だけのものではなく、周りのみんなに支えられているのだと思った。 ・自分も周りの人も大切にしなければならぬ。	・大切な存在である祖父の死が近づいていることへの「ぼく」の不安や寂しさに共感させる。 ・限られた時間を大切にしたいという「ぼく」のじいちゃんに対する深い思いに気付かせる。 ・近付きつつある死に対する恐れと頑張って欲しいと願う気持ちを考えさせる。 ・「なぜ、じいちゃんのはし袋をかまえていたのか」も考えさせることで、祖父の深い愛情に包まれて生きてきたことを実感し、祖父の思いを受け継いでいこうとする「ぼく」の気持ちに気付かせる。 ・ワークシートに書かせる。 ☆自分の存在がかけがえのないものであることを知り、大切にする心をもつ。 ・アンケートを見て、自分の経験を振り返りかえりながら考えるようにする。
	4. 「私たちの道徳」P100を読む。	○私たちの命は、様々な人々との支え合いの中ではなくまれている。	・余韻を残して終わらせる。 ・スクリーンに写す。